



「ゴールデンウィーク」の名称は、映画会社の大映が松竹と競作して1951年(昭和26年)に同時上映となった『自由学校』が、大映創設以来最高の売上(当時)を記録し、正月映画やお盆映画以上の興行成績を残したことで、この時期に観客を多数動員し活性化することを目的として、当時の大映常務取締役であった松山英夫によって作成された宣伝用語であり、和製英語である。1952年(昭和27年) - 1953年(昭和28年)頃から一般にも使用されるようになり、他の業界にも広まった。同時に大映は続いて秋の文化の日を中心とした期間を「シルバーウィーク」と名付けたが、当時こちらは定着しなかった。

## 「思った住宅と違う」やり直し迫る紛争4選

新生活が始まる4月になりました。期待に胸躍る一方、理想と現実のギャップに戸惑うこともあるでしょう。家づくりも同様です。「思っていたものと違う」。新居の完成時や工事中に、建て主が不満を覚えることは珍しくありません。

今回は、そうした不満が高じて、建て主がつくり手にやり直しを求めたトラブル事例を取り上げます

元記事:日経XTECHより

1本目は、仕様と価格を明示して値ごろ感を出した「規格住宅」の玄関タイルを巡るトラブルです。この規格住宅では新築時に、砂岩調の4色からタイルを選ぶ仕組みでした。違いが分からない建て主は、住宅会社の担当者が勧める色を選びました。

しかし住宅の完成時、建て主はタイルを見てびっくり。砂岩調の様子が土汚れのように見えたのです。住宅会社の担当者は「しばらく暮らせば見慣れる」となだめました。約1年後、担当者がその家を訪ねると、建て主は「1年たっても慣れるどころか、見るたびにイライラする。どうにかして」と怒りをぶつけました。



2本目は、新築住宅の玄関ポーチを巡るトラブルです。「ここまで狭いとは思わなかった。危険すぎる」。新居に暮らし始めて1カ月、建て主は玄関ポーチの予想外の狭さに困惑しました。玄関は前道路から階段を3段上がったところにあります。住宅の内側からドアを開けると、来訪者が後ずさりしてポーチから落ちそうになるのです。建て主は、家を建てた住宅会社にポーチを無償で広げるよう要求しました。



3本目では、階段の踏み面の狭さが問題となりました。建て主は新築住宅の着工前、高齢の親が安全に過ごせるよう配慮してほしいと住宅会社に要望しました。そこで住宅会社は、階段の踏み面に余裕を持たせることにしました。しかし引き渡しの数週間前、建て主が現場をチェックすると、階段の踏み面が想定よりも狭いことに気がきました。怒った建て主は、住宅会社に無償でつくり直すよう迫りました。



4本目で問題となったのは、新築工事で使用した木材です。住宅の長寿命化に関心を持つ建て主は着工前、シロアリ被害などへの対策として、土台や柱材の全てに防腐木材を用いるよう工務店に依頼しました。しかし、2階の柱を建て始めた頃、工事を見ていた建て主は激怒。現場に居合わせた工務店の社長を捕まえて、「2階の柱に防腐木材が用いられていない。工事を中止して、やり直せ」と詰め寄ったのです。



## 第26回 今月もウォーキングにお付き合いください

三成 哲也  
の

## ウォーキング 日誌

石川町駅南口(元町口)を出て元町とは反対方向に行く。亀の橋を左折して地蔵坂を上って行く。上りきってすぐのところに取引先がある。

車の免許をとってすぐの頃この地蔵坂の坂上で信号待ちをしていた、信号が青になってさあ発進と思った矢先、前の車がズルズル下がってきてドスン、お互いの車は新車でもないし殆ど損傷も無かったので警察も呼ばなかった。相手は若い女性で坂道発進がうまくできなかったのだろう。今から50年近く前あの頃は殆どがマニュアル車でオートマ車は少なかった。その女性が乗っていた車も確か軽自動車のマニュアル車だったような気がする。自分もまだ10代で初めての接触事故でおどおどしていたのを覚えている。

取引先で所用を済ませ柏葉方面に下りていく、柏葉の通りから南に上って行くくと竹之丸だ。学生の頃友達達のW君が竹之丸でアパートを借りていた、近くにお店もなく、道は狭く車も入って来れない、銭湯は下った麦田町まで歩いて行った。何でもこんな不便なところを借りたのと聞くと大学からの斡旋だという、大学側も白楽とか東白楽界隈物件を斡旋してやればいいものを……。そのW君は1年後には反町でアパートを借りていた。反町駅からも近く、学校帰りによくW君のアパートで麻雀をしたものだ。

古き良き学生時代だった。

柏葉から竹之丸には寄らず麦田町に出る、この通りにはお店も沢山ある、W君と何度か行った千代崎町のおでん屋さんはまだあるのだろうか？ 麦田町からJR山手駅に続く大和町商店街に入る、50年近く前と雰囲気はあまり変わってはいない、新しいお店も沢山できてはいるが、このお蕎麦屋さんはあの頃からあった、この銭湯も外観はあの頃のままで、50年近く前の記憶が蘇る。山手駅に着いた、駅はずっかり変わっている。改札口を出てすぐのところに「ばってん」という美味しいちゃんぽんのお店があったが今はない。



2023年4月22日 JR石川町駅~JR山手駅

3月14日の夜、自分の不注意により右足の親指を骨折、腱断裂、創傷縫合とそこそこの怪我を負ってしまいました。年をとって反射神経が衰えた結果の怪我かなあとつくづく思い知らされました。あと10年若ければ、とっさに反応出来たろうと思うとちょっとがっかりです。そのため毎週日曜日の早朝ウォーキングも中止してひと月以上経ちました。営業活動は10日過ぎから再開しましたが限定的でした。

4月22日は所用で石川町から徒歩10分程度の取引先に行くので、そこから少し足をのびして山手駅までの道のりを1時間程度の短縮バージョンで回顧録とともにお付き合いください。